

古墳時代の大堰川流域における溝の利用

尾崎 裕 妃

2021 8月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

古墳時代の大堰川流域における溝の利用

尾崎 裕妃

1. はじめに

大堰川は淀川水系に属する桂川の上流にあたり、亀岡盆地を北西から南東に分断する河川である。大堰川流域では、亀岡市・南丹市において古墳時代の集落遺跡の調査事例が蓄積されており、その様相について検討が進められている。小稿では集落遺跡の調査で検出した古墳時代の溝状遺構・流路等の遺構を対象として、大堰川流域に形成した集落の開発についての検討材料を提示したい。なお、対象として古墳の周溝、竪穴住居の周壁溝は含まない。

2. 大堰川流域の集落と墳墓

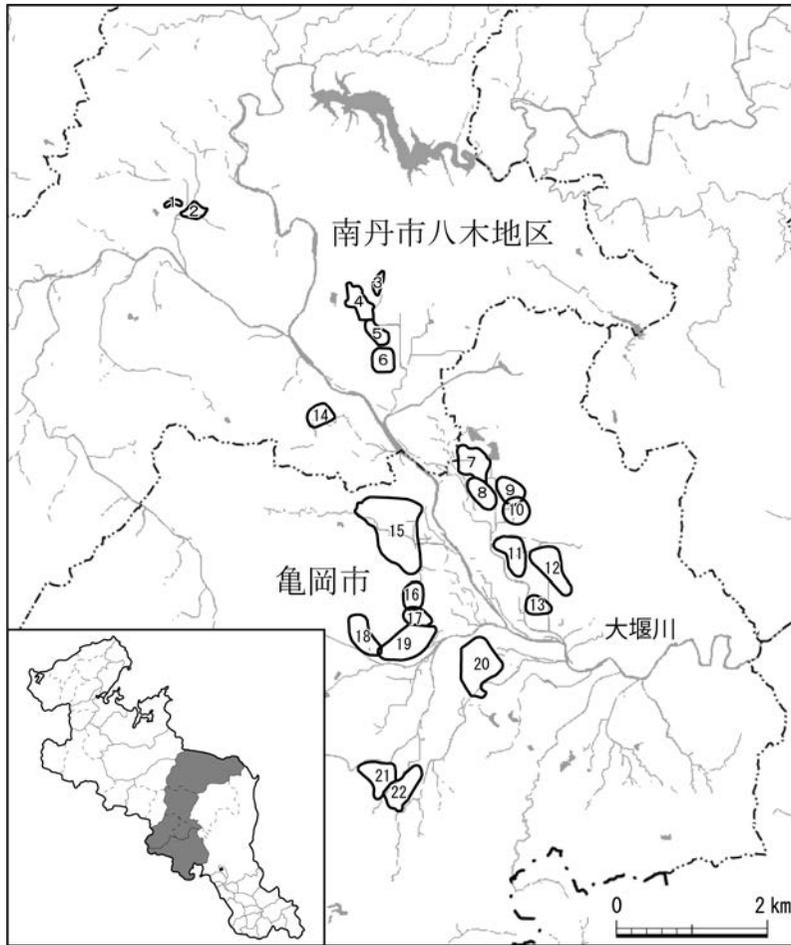
大堰川上流域

大堰川水系の最北端に位置し、複数の小河川により形成された沖積地に園部盆地と呼称される小規模な盆地が形成される。旧船井郡園部町の範囲では、大堰川から分流する園部川の支流河川に沿って分布する曾我谷遺跡・半田遺跡・善願寺遺跡等において弥生時代後期から継続する庄内式併行期の集落を確認しており、同時期には今林8号墳、黒田古墳等の墳墓が築造される。古墳時代前期には中綴古墳・園部垣内古墳等の前方後円墳が築造される。前期以降の集落の動態は不明瞭ではあるものの、丘陵地に分布する今林遺跡等における事例が知られている。中期には大型前方後円墳は築造されず、主に小規模の方墳が築造される。後期には円墳が増加し、園部天神山古墳群等において導入期の横穴式石室を採用する。一方、黒田北古墳群・町田東古墳群・温井古墳群では木棺直葬による古墳も存在する。また、園部盆地では南側山麓の園部窯跡群において須恵器焼成を確認している。

旧船井郡日吉町の範囲では日吉ダム建設にともなう天若遺跡の調査で河岸段丘上に古墳時代中期～後期の竪穴住居を検出しており、竈を有する住居も多く含まれる。

大堰川東岸地域

亀岡盆地北端部では大堰川が西へ迂回するように流れる。旧船井郡八木町の範囲には弥生時代から継続する古墳時代の集落が複数存在する。諸木山裾部に立地する諸畑遺跡・大谷口遺跡では弥生時代後期から古墳時代後期にかけての集落を確認しており、諸畑遺跡は



- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 今林遺跡 | 2. 曾我谷遺跡 | 3. 大谷口遺跡 | 4. 室橋遺跡 |
| 5. 野条遺跡 | 6. 池上遺跡 | 7. 池尻遺跡 | 8. 馬路遺跡 |
| 9. 車塚遺跡 | 10. 三日市遺跡 | 11. 河原尻遺跡 | 12. 蔵垣内遺跡 |
| 13. 大淵遺跡 | 14. 八木嶋遺跡 | 15. 千代川遺跡 | 16. 北金岐遺跡 |
| 17. 南金岐遺跡 | 18. 鹿谷遺跡 | 19. 太田遺跡 | 20. 余部遺跡 |
| 21. 犬飼遺跡 | 22. 金生寺遺跡 | | |

第1図 対象遺跡(地理院地図Vectorを基に作成)

近畿地方で最古式の造り付け竈を有する竪穴住居を含む。筏森山の裾部の平野部では野条遺跡や室橋遺跡において弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居や大規模な溝を検出している。弥生時代中期に大規模集落を形成していた池上遺跡においても古墳時代中期の竪穴住居・掘立柱建物を検出している。中期から後期にかけて筏森山山麓で中・小規模の古墳を中心とする城谷口古墳群等の群集墳が展開する。

亀岡盆地北東部では里遺跡において弥生時代中期から古墳時代前期と後期の住居を検出

している。亀岡盆地南東部から東部にあたる地域では、前期になると向山古墳や出雲武式古墳等の円墳が築造される。前期の集落としては蔵垣内遺跡・時塚遺跡・出雲遺跡・河原尻遺跡等で竪穴住居等を検出している。中期になると前方後円墳の保津車塚古墳(案察使1号墳)のほかに、坊主塚古墳・天神塚古墳や榊塚古墳等の方墳が築造される。後期には亀岡盆地最大の前方後円墳である千歳車塚古墳が築造される。同時期には池尻遺跡・馬路遺跡・大淵遺跡等において集落が形成される。後期後半から飛鳥時代前半にかけては横穴式石室を主体とする群集墳が造営される。

大堰川西岸地域

旧船井郡八木町の範囲では城山山麓の東谷川により形成された扇状地に八木嶋遺跡が立地する。古墳時代後期の大型掘立柱建物・脇屋・柵から構成される豪族居館を確認しており、その南西の山裾に分布する坊田古墳群との関連性が指摘される。

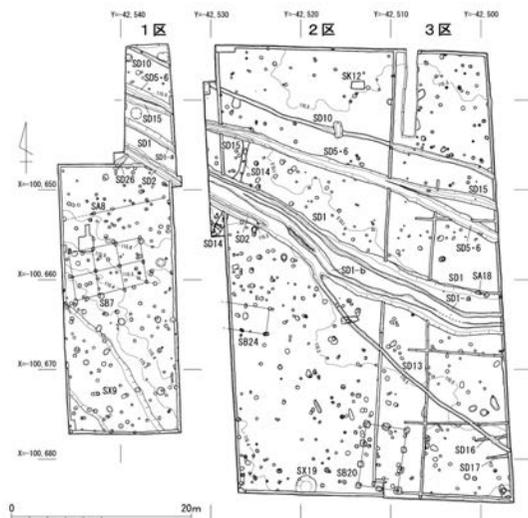
亀岡盆地北西部では行者山山麓において集落遺跡が分布する。扇状地上に弥生時代から古墳時代中期にかけては、弥生時代前期の環濠集落として有名な太田遺跡のほか、千代川遺跡・北金岐遺跡において集落が形成される。鹿谷古墳群との関連性が指摘されている鹿谷遺跡では古墳時代中期～後期初頭の集落を確認している。亀岡盆地中央部に立地する余部遺跡では古墳時代中期の竪穴住居を検出している。後期には前方後円墳である拝田16号墳のほか、200基以上の古墳から構成される小金岐古墳群等が造営される。一部の古墳の埋葬施設として採用された導入期の横穴式石室は紀伊・九州・山陰地域との関連性が指摘される。

3. 大堰川流域における溝の利用

(1) 利用の変遷

弥生時代後期～古墳時代初頭

大堰川上流の曾我谷遺跡では約90mの溝を検出している^(注1)。大堰川東岸流域、園部盆地では野条遺跡や室橋遺跡において溝群を検出している。野条遺跡第17次調査で検出された弥生時代後期末～古墳時代初頭の溝群は大規模な溝SD01を本流とし、流量を調整するため



第2図 野条遺跡第17次調査遺構配置図
(高野ほか2012を改変)

に支流として小規模な溝を掘削したと推測される(第2図)。堆積状況から灌漑水路として利用することを目的とし、集落を区画する境界としても機能していたと考えられる。^(注2)

室橋遺跡第17次調査では弥生時代後期後半から古墳時代初頭の大規模な溝S D17401を検出しており、北西から南東へ向けて大堰川の延長上に掘削されていることから大堰川から導水していた可能性が指摘される(第3図)。また、溝幅の底面が2mを超えていることから、小舟による水運が行われていた可能性がある。^(注3)大堰川東岸流域、亀岡盆地北端部においては、大堰川の本流が西へ迂回するため、古墳時代以降も繰り返し灌漑水路が掘削されることを確認しており、平安時代には新庄用水の祖型となる水路が開削される。^(注4)現在も大堰川井堰から新庄用水へ導水されている。

大堰川西岸地域、亀岡盆地北西部では弥生時代から継続して千代川遺跡・北金岐遺跡・南金岐遺跡等において溝を利用する。千代川遺跡では弥生時代後期後半から鎌倉時代にかけての流路であるSR16001を検出している。

古墳時代前期～中期

大堰川東岸・西岸両地域で溝を掘削する。室橋遺跡では古墳時代前期末～中期前葉に新しい集落を形成するにともない灌漑水路とは異なる区画溝を掘削する。千代川遺跡では大堰川に合流する約150mの流路S D01にともなう溝群を掘削し、一辺約60m四方に集落を区画していた可能性が指摘される。^(注5)

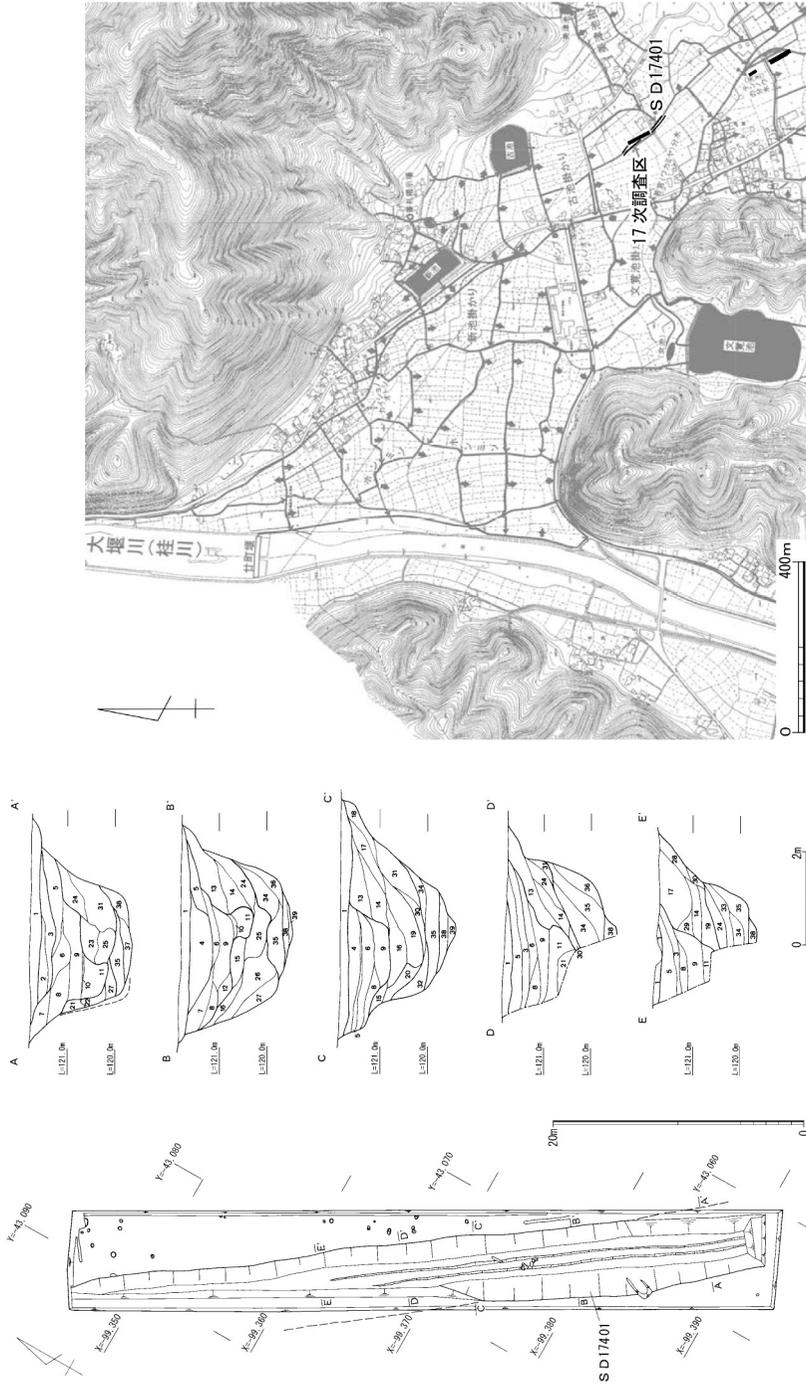
古墳時代後期

大堰川東岸地域、亀岡盆地南東部～東部では池尻遺跡において古墳時代後期から平安時代にかけての溝を検出している(第4図)。飛鳥時代に再度掘削されており、同時期の堅穴住居群を区画している。一部の範囲は板で補強されていた可能性が指摘される。池上遺跡の西に接する馬路遺跡や南に位置する大淵遺跡においても古墳時代後期に溝が掘削され、古代以降に再掘削される状況を確認している。これらの溝は千歳車塚古墳の築造前後に掘削されたことが推定されることから、古墳時代後期に周辺地域において水利を含めた開発が行われたと考えられる。^(注6)

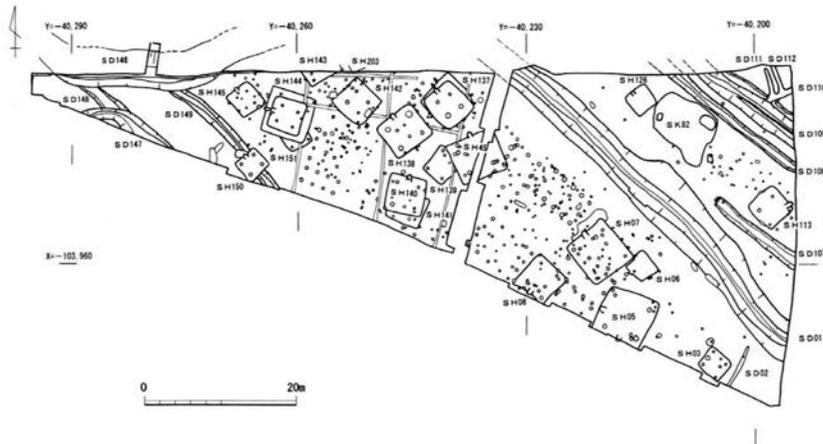
大堰川西岸流域の低地では八木嶋遺跡において古墳時代後期の流路S D01を検出しているほか、古墳時代後期の豪族居館と考えられる掘立柱建物群を区画する溝を検出している(第5図)。^(注7)

(2) 構築物と出土遺物

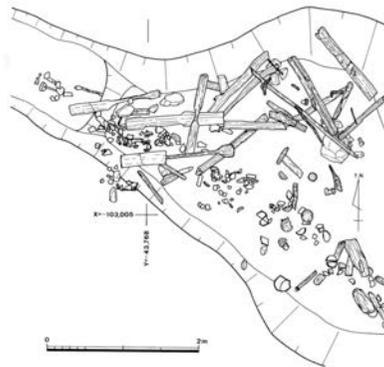
野条遺跡のS D1において掛橋に伴う支柱痕の可能性のある柱穴を2基検出している。北金岐遺跡で検出された弥生時代後期の溝B-S D01は古墳時代に一部改修するとともに3枚の板材を組み合わせた堰を構築した(第6図)。^(注8)八木嶋遺跡ではS D01に沿う土堤状



第3図 室橋遺跡第17次調査(辻本ほか2010を改変)



第4図 池尻遺跡第12次遺構配置図(岡崎2007を改変)

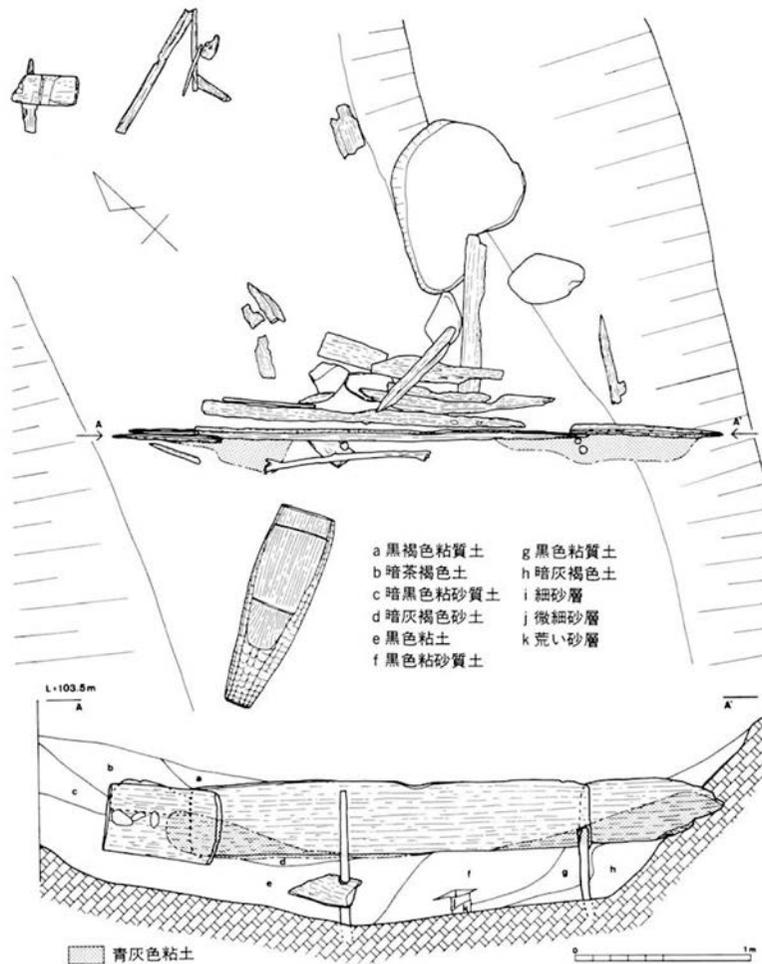


C地区流路跡SD01 遺物出土状況



E地区遺構配置図

第5図 八木嶋遺跡第1次調査遺構配置図(奥村ほか1994を改変)



第6図 北金岐遺跡B-S D01堰及び木製品出土状況(石井ほか1985を改変)

の高まりに杭列を打ち込み護岸施設として機能していたことが推測される。

千代川遺跡ではSR16001より土器とともに農耕具が出土している。曾我谷遺跡では庄内式併行期の溝より小型精製品を含む庄内式期の土器が出土している。また古墳時代中期後半の溝より多種多様な須恵器が出土している。野条遺跡ではSD1と合流するSD2の埋土下層よりほぼ完形に復元できる土器が列状に複数出土しており、祭祀が行われていた可能性がある。八木嶋遺跡では流路SD01から完形の古墳時代後期の須恵器の杯身・杯蓋、木製品、桃核等の植物遺体、馬骨・馬歯等の動物遺体が出土しており、祭祀に用いられたと考えられる。

4. まとめ

弥生時代から古墳時代初頭にかけて灌漑用水路としての利用が主と推測される溝状遺構の開削が行われ、古墳時代前期以降は集落にともなう区画溝としての利用が目立つ。また、古墳時代後期には大堰川東岸地域を中心に新たな集落が形成されるのにもない、溝状遺構を利用した集落内の区画を行う様相が確認できる。また、これらの溝は古代に再掘削される傾向がある。

近年では亀岡盆地中央部の余部遺跡、南部の金生寺遺跡・犬飼遺跡等において調査事例が増加している。余部遺跡第16次調査では弥生時代から古代にかけての溝を検出しており、農耕具を含む多数の木製品が出土している。金生寺遺跡第7次調査では古墳時代前期から中期にかけての貯水施設等の水利関連遺構を検出しており、亀岡盆地南西部に生産域の存在が示唆される。これらは今後、大堰川流域のみならず古墳時代における地域経営を研究する上で重要な調査成果となるだろう。

(おざき・ゆうき = (公財)大阪府文化財センター技師)

- 注1 平良泰久ほか1977「曾我谷遺跡発掘調査概報」『園部町文化財調査報告』第2集 園部町教育委員会
- 注2 高野陽子ほか2012「野条遺跡第17・19次」『京都府遺跡調査報告集』第150冊 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 注3 辻本和美ほか2010「室橋遺跡第17・19次」(『京都府遺跡調査報告集』第139冊 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 注4 前掲注3、注4
- 注5 水谷寿克ほか1984「千代川遺跡第3次」(『京都府遺跡調査概報』第12冊 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 注6 岡崎研一2007「池尻遺跡第12次」(『京都府遺跡調査報告集』第123冊 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)2007
- 注7 奥村清一郎ほか1994「八木嶋遺跡」(『京都府遺跡調査報告集』第56冊 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)1994
- 注8 石井清司ほか1985「北金岐遺跡」(『京都府遺跡調査報告書』第5冊 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)1985
- 注9 報告書における事実記載を基本として整理しているが、検出長・幅・深さの数値については()を付しているものは報告書の図版を基に筆者が計測したものである。なお、表の作成にあたり、注釈で提示したもの以外に多くの報告書を参考にしたが割愛させていただきます。

参考文献

高野陽子「南丹波における古墳時代中期集落の動態」(『古代学研究』第201号)2014

付表1 古墳時代の大堰川流域における溝状遺構(注9による)

地域区分	道路名	立地	調査枚数	遺構名	総延長(m)	幅(m)	深さ(m)	断面	出土遺物	時期	備考	
大堰川上流域	曾我谷遺跡	扇状地	1	溝状遺構	90	1.5	0.8	V字形	土器(甕・甕・鉢・高杯・器台・小型丸底器・小型器台等)、石製品	庄内式併行期		
			1	旧河遺跡	35	4.5	1	逆台形	土師器(須恵器(蓋・杯・高杯・ハバク・甕・甕・鉢・器台・甕等)、土師器(甕・甕・高杯等))	古墳中期後半か	壱六住居の溝+排水路か	
	池上遺跡	丘陵地	1	SD16	13	0.2~0.3	0.25	逆台形	須恵器(杯蓋)等	古墳時代中期後半		
			5	SD559	2.5	0.3~0.8	0.1			古墳		
			13	SD451	(3.3)	(0.7)	0.1			古墳		
	大谷口遺跡	山地	13	SD471	(2)	(0.5)	1.5			古墳		
			13	SD472	(3)	(0.3)	1.5			古墳	SD471に平行	
			3	SD568	(3.3)	(0.5)	0.1			古墳	SD451に沿う	
	大堰川東岸流域	野条遺跡	低位段丘	2	溝	(4)	1.5	1		土師器(甕)	古墳前期か	
				3	溝	(4)	0.7	0.4	逆台形	弥生土器・土師器	古墳	
17				SD1	50	2.8~5.5	0.3~0.4	逆台形	土器	弥生後期末~古墳初頭	灌漑・区画溝、再掘削・築盛か	
17				SD2	18	0.6	0.4	逆台形	土器(甕・甕・高杯・台付鉢・鉢等)	弥生後期末~古墳初頭	灌漑・区画溝、土器祭祀	
17				SD5	(35.7)	1.2~1.4	0.3~0.4	逆台形	土器	弥生後期末~古墳初頭		
17				SD6	(35.7)	0.6~0.8	0.2	L字形	土器	弥生後期末~古墳初頭		
17				SD10	(33.2)	0.4~0.7	0.2~0.3	逆台形	土器	弥生後期末~古墳初頭	SD5を再掘削	
17				SD13	(29.6)	0.4	0.35	逆台形	土器	弥生後期末~古墳初頭		
17				SD14	(11.3)	0.5~0.9	0.1			弥生後期末~古墳初頭		
17				SD15	(5.8)	1	0.3			弥生後期末~古墳初頭		
大堰川東岸流域	野条遺跡	低位段丘	17	SD26	(2.6)	0.5~0.8	0.4		土器	弥生後期末~古墳初頭		
			19	SD202	13.5	0.75以上	最大0.12		弥生土器	古墳後期以前	SD203に平行、SD204・SD207に切られる	
			19	SD203	13	1.2以上	最大0.17		須恵器	古墳後期~終末期		
			19	SD204・206	(10.7)	3	0.3		弥生土器(須恵器(杯身))	古墳後期~終末期		
			19	SD205	4	1	0.1		弥生土器	古墳後期~終末期		
			19	SD207	2	0.6	0.22		弥生土器	古墳後期~終末期	SD204・206・208に平行	
			19	SD208	4	0.4	0.15		弥生土器	古墳後期~終末期	SD203を切る	
			19	SD210	16	0.6以上	最大0.4		土器	古墳後期~終末期	SD204~206に平行	
			5	SD120	(11.3)	3.5以上	1.8	逆台形	土師器	弥生後期末~古墳初頭		
			5	SD230	(15.1)	4	1.5	V字形	土師器	弥生後期末~古墳初頭	傾斜面に柱穴群	
大堰川東岸流域	野条遺跡	低位段丘	11	SD11101	(26.8)	最大4(5~6分)	(2.1)	逆台形	土師器(甕)	弥生後期末~古墳初頭		
			15	SD11201	(13)	3.5	1.5	V字形	土師器(甕)	古墳前期		
			15	SD150401	8	(2以上)	最大0.85	逆台形	土師器(甕)	弥生後期末~古墳初頭	SD230・SD11201と同一か	
			15	SD151001	(25.4)	1.1~1.6	0.6	V字形・逆台形		古墳時代か		
			17	SD17101	(7)	1.4	0.6~0.7	L字形	土師器	古墳中期~後期	SD151001と同一か	
			17	SD17202	20	2.5	1.1	V字形	土師器(甕・高杯等)	古墳中期~後期	区画溝か	
			17	SD17302	(19.5分)	(3.2分)	1.3~1.5	逆台形	土師器	古墳中期~後期前半	SD17202を再掘削か、区画溝か	
			17	SD17302	(19.5分)	(3.2分)	1.3	逆台形	土師器	古墳中期~平安	SD17301と同一か、灌漑	
			17	SD17302	(19.5分)	(3.2分)	1.3	逆台形	土師器	弥生後期末~古墳初頭	SD17301として再掘削、灌漑か	
			17	SD17401	50	5	2.4	逆台形	土師器	弥生後期末~古墳初頭	SD11101と同一か、灌漑	

付表2 古墳時代の大堰川流域における溝状遺構(注9による)

地域区分	遺跡名	立地・ 地形・ 遺跡名	調査枚数	遺構名	検出長(m)	幅(m)	深さ(m)	断面	出土遺物	時期	備考	
大堰川東岸流域	藤垣内遺跡	山地・ 扇状地 低位段丘・ 低地	4	SD33	10.3	0.7	0.05~0.1			古墳	堅穴住居の溝、排水路か	
			12	SD01	52	4~6	1~1.3	V字形・逆台形	須恵器・子持ち勾玉	古墳後期~平安	再掘削、灌漑か	
	池尻遺跡	低地	12	SD109	(16)	2.7	1.2	逆台形	須恵器	古墳後期~平安	再掘削	
			3	SD02	(41.7)	2.4	0.65	U字形・V字形	須恵器	古墳後期~平安	再掘削	
	馬路遺跡	低地	3	SD04	(42.7)	1.7	0.6	U字形・V字形	須恵器	古墳後期~平安	再掘削	
			4	SD100B	(247)	4.2~4.8	0.5	V字形・逆台形	土師器・須恵器	古墳~奈良	SD100Aとして再掘削	
	大淵遺跡	低地	4	SD101	(80.5)	1.4	0.3	U字形	土師器・須恵器	古墳		
			4	SD102	(14.6)	2	1	V字形	土師器・須恵器	古墳		
			4	SD114	(18)	2.5	0.5	逆台形	土師器・須恵器	古墳		
			3	SD215	2.8	1.1	0.4~0.6			古墳		
	中古墳群 三日月遺跡 車塚遺跡	低位段丘・ 扇状地	13									
			11	SD50	7.5	3.2~4.5	0.2~0.45		土器	弥生後期末~古墳初頭		
	八木嶋遺跡	低地	2	SD01	24	2.4	約0.3~0.5		土師器(杯・高杯・盃・壺等)、 須恵器(杯身・杯蓋・高杯・盃・壺等)、 木製品、割土器、砥石、種子類	古墳後期	流路、杭列	
			2	SD0218	(14)	2.8~1.5	0.35~0.5		土師器(壺)	古墳		
			3	SD01	150	10	1.5		土師器(壺)、須恵器、木製品	古墳前期~平安	流路、杭、板材	
			3	SD02	3	1.2				SD01と合流、区画溝か		
3			SD03	4	1.2				区画溝か			
3			SD07	1.5	1			土師器	古墳前期			
10			SD10147	(24)	約2	最大0.3	U字形	須恵器	古墳前期	区画溝か		
12			SD12119	(13)	約4.5	最大0.3	U字形	須恵器	古墳後期~終末期	SD10149と一部重複		
12			SD12121	(22)	約3~10	約0.4	U字形	土師器・木製品	古墳中期か			
14			SR16001	(68)	25	2		弥生後期後半~鎌倉時代か	流路、堰構築			
大堰川西岸流域	畷	16	SR03	12	14	1		土師器(壺・高杯)	古墳前期	流路		
		1	SD0102	0.4	0.2		U字形		弥生中期~区内式併行期か	SD0103・SD0104と合流		
		1	SD0103	15	3.5~5	0.4~1	U字形		弥生中期~区内式併行期			
		1	SD0104	23	1.3~1.2	0.5~0.3	U字形		弥生中期~区内式併行期			
		1	SD0105	3	0.5	0.2	U字形		弥生中期~区内式併行期			
		1~2	B-SD01	55	6~9	1.5~2		弥生土器・土師器(壺・盃・器台・高杯等)、 石器、木製品、縄文土器	弥生後期~古墳初頭	古墳時代に改修、堰構築		
		1~2	B-SD06	20	0.4	0.3	逆台形	須恵器(高杯)	古墳後期			
		1~2	B-SD08	7.5	0.5	0.2		土師器(小型丸底釜)	古墳後期~古墳初頭			
		1~2	B-SD12	8.5	0.25~0.4	0.2		土器(壺・高杯)	弥生後期~古墳初頭			
		1~2	B-SD26	5	0.4~0.6	0.2~0.25	U字形	弥生土器(壺・器台・鉢)	弥生後期~古墳初頭			
北奈岐遺跡	扇状地	1~2	B-SD27	50	1.0~1.4	0.6	逆台形	土師器(小壺)・須恵器(杯身)	古墳後期			
		1~2	B-SD46	2.6	0.3	0.1		土器(壺)	弥生後期~古墳初頭			
		1~2	C-SD16	22	7~11	2		弥生土器(壺・盃・鉢・高杯)、 須恵器(杯身・杯蓋)、石器	弥生後期~古墳初頭			
		1~2	C-SD18	30	0.3~0.5	0.3	U字形	須恵器(杯身・杯蓋)、土師器(壺・甕)、製塩土器	古墳後期			